

園芸文化



七十五周年記念号

No.128

ご挨拶	小笠原 左衛門尉亮軒 (おがさわら・さえもんのじょうりょうけん)	1
協会のあゆみ	園芸文化協会事務局・編	2
半世紀前の園芸文化協会	鳥居 恒夫 (とりい・つねお)	4
寸暇録 (すんかろく) 連載第三回 江戸菊の成立と栽培の盛衰	小笠原 左衛門尉亮軒	5
皇居外苑の四季の移ろい	穴戸 博 (ししど・ひろし)	8
一般社団法人 日本ハンギングバスケット協会の歴史と今後	武内 嘉一郎 (たけうち・かいちろう)	10
アーカイブ 園芸文化賞に因んで ― 日本のバラと園芸文化		
	昭和五十三年園芸文化賞「バラの改良・普及」岡本 勘治郎 (おかもと・かんじろう)	
	園芸文化賞受賞に寄せて「バラの父 岡本勘治郎先生」	
園芸に文化意識を！	鈴木 省三 (すずき・せいぞう)	12
舞妃蓮 よみがえったハスの美	阪本 尚生 (さかもと・ひさお)	14
蓮の香りに魅せられて	奥 峰子 (おく・みねこ)	15
スペシャリストを養成する テクノ・ホルティ園芸専門学校	伊東 政信 (いとう・まさのぶ)	16
アーカイブ 私の植物記より ゼラニウム		
事務局より (協会案内)	鶴島 久男 (つるしま・ひさお)	17



表紙写真

法金剛院のハス「酔妃蓮」

ハスは泥水の中から生えて清浄な花を咲かせることから、仏教ではその姿が仏の智慧や慈悲の象徴とされています。

写真は律宗・五位山「法金剛院」の池に咲くハスです。当寺は平安時代の1130年に創建され、境内は浄土式庭園で作庭されて花が多いことから花の寺ともいわれています。中でもハスが有名で、広い池一面に咲く姿は見事です。ほかにもサクラ、アジサイ、ハナショウブ、姫鐵菊、紅葉、ツバキなどがあり、四季を通じて多くの方が参拝に訪れています。

撮影地：京都市右京区 法金剛院

撮影日：2005年8月6日

【編集委員】

* 編集制作 / (公社) 園芸文化協会 会報編集委員会

* DTP デザイン / 中村奈保子 (ムルハウス)

* 写真提供 / 伊東政信 NPO バラ文化研究所

小笠原左衛門尉亮軒 奥峰子 阪本尚生 穴戸博

尚古集成館 武内嘉一郎 鶴島久男 鳥居恒夫

南場浩一 (五十音順)



ご挨拶

公益社団法人園芸文化協会会長
小笠原 左衛門尉亮軒

早春の候 当協会会員、賛助会員、並びに関係各位におかれましては益々御清祥の御事とお慶び申し上げます。

日頃は当会運営に対し、ご支援お引立を賜り誠に有難く心より御礼を申し上げます。

さて、当協会は、昭和19年(1944)3月、当時文部省の認可を得まして創立されました。以来令和元年(2019)をもちまして75周年を迎えることと相成りました。

思えば、創立の年わが国は第二次世界大戦の真っ只中、しかも戦況日々悪化をたどり、レイテ、サイパンは連合軍の手に落ち、米空軍のB29機による空襲が始まった年でもあります。こうした情勢の中、初代会長、公爵島津忠重氏を中心とし、帝国愛蘭会の会員を主力として新しく、平和の象徴のような、観賞園芸、しかも‘文化’を会名とした活動を、どうして発想されたのでありましようや。



島津忠重公 (尚古集成館蔵)

私事で恐縮ながら、この年私は国民小学校5年生、学童疎開、小学校校庭には防空壕が掘られ、日当たりの良きところは春は麦畑、夏はサツマイモの品種‘農林1号’や‘護国’を栽培し食糧増産の一助としていました。

こうした時期に、島津会長は、この戦況のあとに来るべき事象が見えていたのでしょうか。また文部省も何かを察しての認可であったのでしょうか。詳細は歴史の謎としてよくぞ創立をして下さったと敬愛の念あるのみであります。

こうした歴史ある会の75周年という記念すべき年、記念行事として昨秋、森ミドリ様を中心とした記念コンサート「音が紡ぐ花ものごたり」を、そして桂文我師匠と、民俗学者の神崎宣武先生との「園芸と演芸の競演会」を開催させていただきました。

また当会が歩んで参りました75年間にわが国では色々の園芸植物の流行、盛衰がありました。それを辿ってみようと「創立75周年記念令和2年度新春会員交流会」に於いて、「園芸文化を支えた花たち」と題し話をさせていただきました。

このように目立った企画はできませんが、地道に一步一步わが国の園芸文化発展の為に当会の運営に当たりたいと考えております。一層のお引立、お力添えを賜りますようお願いを申し上げご挨拶とさせていただきます。

末筆となりましたが、会員並びに関係各位のご多幸を祈り上げます。

敬白
令和2年 春日



サツマイモ‘農林1号’



サツマイモ‘護国’



観桜会でサクラの解説をする筆者
2012(平成24)年4月21日
於：新宿御苑



④ 第1回 花の文化展

③「季節の園芸」(日本テレビ) 撮影風景

②ガーデンビューロー (家庭園藝相談所)

①花卉同好会品評会 (日本橋三越本店にて)

協会のあゆみ (年表)

西暦 和暦 出来事 *画像あり

一九二六 大正15年 「花卉同好会」設立(帝國愛蘭会の会員有志による洋ラン以外の花卉全般にわたっての同好会)
会長は島津忠重公爵

一九二七 昭和2年 東京日本橋三越本店にて「第一回陳列会」を開催

それ以降、春秋年二回、日本橋三越本店または華族会館で開催 *写真①

一九四四 昭和19年 三月一日 文部省管轄社団法人園芸文化協会認可。初代会長に島津忠重公爵が就任

一九四六 昭和21年 日比谷公園内にガーデンビューローを開設 *写真②

一九四八 昭和23年 協会誌「園芸文化」第1号を発行

しかし発行後すぐにGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の忌避に触れ、没収される

一九五四 昭和29年 初のテレビ園芸番組「季節の園芸」(日本テレビ)を企画・出演 *写真③

一九五九 昭和34年 第一回花の文化展「皇太子御結婚記念慶祝」を開催(於日本橋三越本店) *写真④

一九六〇 昭和35年 「花卉園芸年鑑」を発行 *写真⑤

一九六八 昭和43年 二代目会長に石田博英氏が就任

一九七二 昭和47年 「フロリアーデ・アムステルダム1972」に参加・植物提供 *写真⑥

一九七四 昭和49年 「園芸文化」第50号を発行 *写真⑦

一九七七 昭和52年 「園芸文化賞」を創設

一九八二 昭和57年 タイ国一〇〇年祭にサクラほか花卉を贈呈

一九八三 昭和58年 「園芸文化展'83」(初回)を開催(於新宿御苑)

一九八七 昭和62年 三代目会長に原文兵衛氏が就任。「園芸文化」第100号を発行

一九九〇 平成2年 「国際花と緑の博覧会」(略称・花の万博EXPO'90)に出展

一九九四 平成6年 創立50周年記念講演会・記念祝賀会を開催。 *写真⑧ 「第一回新花コンテスト」を開催

一九九六 平成8年 四代目会長に福原義春氏が就任

二〇〇〇 平成12年 「実践ガーデニング講座」を開講 *写真⑨

二〇〇三 平成15年 新宿御苑インフォメーションセンター前にて「新宿御苑花市場」を開始 *写真⑩



⑤「花卉園芸年鑑」全5巻 (昭和36~40年)



⑪新宿御苑菊花壇展 観菊会 (新宿御苑)



⑩新宿御苑花市場 (新宿御苑インフォメーションセンター前にて開催)



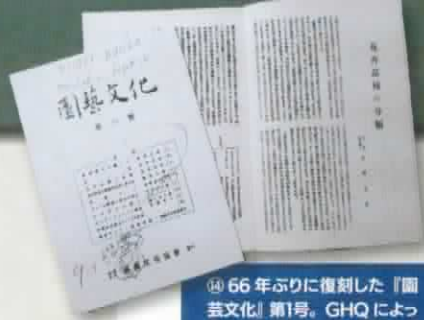
⑨実践ガーデニング講座 (講義と専用園地で学ぶ本格的講座)



⑧創立50周年記念祝賀会 (高円宮ご夫妻をお迎えして)



⑥「フロリアーデ・アムステルダム1972」でのハナショウブ展示



⑭ 66年ぶりに復刻した『園芸文化』第1号。GHQによって没収日が書き込まれている



⑬ 日本園芸フェスティバルにて「江戸で開花した園芸文化」と題して展示（さいたまスーパーアリーナ）



⑫ 日比谷公園バラ管理ボランティア「日比谷ローズ」

二〇〇四 平成16年 創立60周年を迎える
五代目会長に保坂三蔵氏が就任。「新宿御苑菊花壇展観菊会」を開始 *写真⑪

二〇〇五 平成17年 「2005日本フラワー&ガーデンショウ」(社団法人日本家庭園芸普及協会主催)に初参加

二〇〇七 平成19年 日比谷公園バラ花壇管理ボランティア「日比谷ローズ」の活動を開始 *写真⑫

二〇〇八 平成20年 『月刊グリーン情報』(株グリーン情報刊)にて連載「TARAYOU(多羅葉)」を開始

二〇一〇 平成22年 「東京インターナショナルフラワー&ガーデンショウ2010」(於国営昭和記念公園)、「日本園芸フェスティバル」(於さいたまスーパーアリーナ)に参加 *写真⑬

二〇一二 平成24年 第29回全国都市緑化フェアTOKYOに参加

二〇一三 平成25年 「不忍池早朝観蓮会」開催。半世紀ぶりにこの地での観蓮会を復活させる *写真⑮

二〇一四 平成26年 創立70周年を迎える。四月一日付で公益社団法人に移行
GHQに没収されていた『園芸文化』第1号を66年ぶりに復刻 *写真⑭

「公益社団法人園芸文化協会 創立70周年・公益社団法人移行祝賀会」を開催 *写真⑯

二〇一五 平成27年 園芸文化賞表彰式において、受賞者による記念講演を開始

二〇一六 平成28年 六代目会長に小笠原左衛門尉亮軒氏が就任

二〇一七 平成29年 小笠原会長就任記念講演「世界に誇る江戸の園芸」を開催
内閣府より褒章条例に基づく公益団体として認定される
(公社)日本植物園協会、(公財)東京都公園協会ほかの
共催・協力にて「未来につながる朝顔文化」歴史と鑑賞」を開催 *写真⑰

二〇一八 平成30年 日比谷公園第一花壇と新宿御苑内の花壇監修を開始 *写真⑱

約20年ぶりに「園芸文化」を復刊

(公社)日本植物園協会、(公財)東京都公園協会ほかの
共催・協力にて「未来につながる朝顔文化 SEASON2」を開催

二〇一九 令和元年 創立75周年を迎える
連載「TARAYOU(多羅葉)」が70回を迎える
(公社)日本植物園協会、(公財)東京都公園協会ほかの共催・協力にて「未来につながる朝顔文化 SEASON3」を開催
創立75周年を記念し「音で紡ぐ花ものがたり」、「園芸と演芸の競演会」が実施される



『TARAYOU(多羅葉) 園芸文化協会だより』平成6~8年、協会誌『園芸文化』に加え、協会のコミュニケーションを図るために発行。全8号



⑩ 生まれ変わった新宿御苑大温室前の花壇



⑰ 「未来につながる朝顔文化」(日比谷図書文化館コンベンションホール)平成29年~令和元年まで3年間開催



⑯ 創立70周年記念・公益社団法人移行祝賀会。来賓の安倍昭恵氏と新花コンテスト受賞者との記念撮影



⑮ 「不忍池と蓮の文化展」(恩賜上野公園・不忍池畔)

半世紀前の園芸文化協会



「園芸文化展'85」(1985(昭和60)年4月 於:新宿御苑)にて
写真左より元常務理事の清水基夫氏、前副会長の三好毅男氏

さくらそう会世話人代表
(公社)園芸文化協会 園芸文化審議委員

鳥居 恒夫



「第3回花の文化展」
さくらそう会の展示
1961(昭和36)年4月
於:日本橋三越本店

公式の事務所は小石川植物園にありましたが、実質的な事務取扱所は清野氏のところに置き、仕事は事務的なお手伝いでしたが、会報などの原稿の整理などもし、清水氏からキューバでキクづくりをされる日本人の方からの手紙を預かり、一つの記事にまとめるという編集の仕事も初めて経験しました。

当時の会長は島津忠重氏(二ページ写真参照)で、総会には出席され議長を勤められました。島津家の当主、元公爵で貴族院長という最高位の華族だった方ですが、既に老境に入られた品のよい紳士という印象で、議事を坦々と進められ、特にご自身の主張を述べられるということはありませんでした。公務で英国に何年も滞在され、英国王立園芸協会の実情もご存知で、それを手本に日本でも同様の活動ができないかと考えて協会設立に動かれた旨を述べられています。直接お話を伺うという立場にはなく、お目にかかったことがあるというだけに過ぎません。

それから2年後の1961年4月から1年間、理事であった清水基夫氏(直後に大船植物園長に就任)のご紹介で、私は副会長であった清野主氏に雇われて仕事をすることになり、園芸文化協会のお手伝いすることになりました。

副会長の林博太郎氏は創立時には理事長で、元伯爵で満鉄(南満州鉄道株式会社)総裁という実力者として知られ、この人の主導で昭和19年という切迫した時期に協会設立ができたものと思います。広い屋敷には温室もあり、和洋の植物を集めて育てられ、この園丁から育った園芸人も多かったのです。敗戦で華族制度は廃止、境遇が一変して以後は華々しい活動はなく、総会への出席もなかったようです。

もう一人の副会長が清野主氏で、アメリカでツバキなどの園芸植物の生産農場を経営された成功者として知られ、晩年は日本で余生を送られました。協会の会員は180名ばかりで収入は少なく、清野氏の大口の寄附金によってやっと活動ができていたのが実情で、1961年に発行された『花卉園芸年鑑』のあとがきでもそのことが述べられています。

理事長は空席、常務理事は加藤光治氏、吉村幸三郎氏、清水基夫氏でこの人たちと後で述べる参事会の若手で、協会が動いていました。理事には穂坂八郎氏、小松崎秀男氏、加藤要氏、福羽亮三氏などがおられ、年に2回ほどは開催されていたように思います。評議員には主に園芸団体の代表者及び、のちに私などもさくらそう会の代表

花卉園芸年鑑
1961年版



園芸文化協会編



「日本を代表する花」として「紅筋ヤマユリ」がモチーフに選ばれた

「花卉園芸年鑑」ケースのユリの紋章。筆者の進言により彫刻家朝倉文夫氏が制作したメダル圖案をここに印刷

者として入れられました。が、評議員会が開かれた記憶は有りません。一番活発に活動したのは参事会で、隔月くらいに青山学院の集會室を借りて集まり、情報や意見を交わし、催しの期日や分担を相談して動いていました。柳宗民氏、石津百合男氏、江尻光一氏、植村猶行氏、中村恒雄氏などが常連で、この参事会と常務理事で会の活動が進んでいました。参事の方々はその後理事となり、協会の活動を支えられました。

園芸界を網羅した80名もの役員には遠方の方もあり、活動される人は限られており、これはいつの時代も同様だと感じます。すべての方が天国の花園に行ってしまうました。

私はその後神代植物公園に奉職した頃に協会に入会をしましたので、会員歴だけは55年ほどになります。最初から参加することに意義があると考えた自身の規範で入会しましたので、運営の状況が変化しても退会もせず、恥を曝すばかりです。



江戸菊 '酔美人' 当会会員：植田由喜子 画（元日本植物画倶楽部会長）
 '酔美人' は平成初期、新宿御苑にて作出された江戸菊・紅色系の名品種。おそらく明治期の同色系銘品中の名品種 '宿の一本（やどのひともと）' の流れを汲む品種であろう。運送さ

連載第三回

江戸菊の成立と栽培の盛衰

寸暇録

一般財団法人 雑花園文庫・庫主

小笠原左衛門尉亮軒

江戸菊とは

江戸園芸を代表する言葉として「寛永の椿、享保の菊」と云われた。享保年中、菊作りは三都（京、大坂、江戸）を初め、地方の都市部にも栽培が広まり、全国的な流行を見るに至ったようだ。そうした栽培流行の中で、特に今日「江戸菊」と名付けられた品種がある。

その特徴は、中輪花（花径15〜18cm）で、外周花弁は管状弁となり、先端は匙状弁が一〜二重あり、内側には平弁が五〜十五重あり、更に花心部は一重咲きの花心のごとく筒状花（黄色）があり、一花は三段三種の花弁をもって構成されている。

本種は三種の花弁が全開した後に、中位の平弁が、先半分が外反したり、中程から折れ曲がったりして、中心の筒状花を包むように動き、曲がり、三日〜十日程でその

【寸暇録とは】

忙しい日々の暮らしの中で、少しの時間を利用して行うことなどを、寸暇云々と言うようです。園芸を楽しみとする人、園芸を業とする人、共に気づいた事柄や、植物育てをしたことを書き留めたらと思って名付けました。

私が最初に書かせてもらいましたが、会員諸氏に書き続けていただければ幸いです。

（小笠原 左衛門尉亮軒・題字署名直筆）

品種のもつ特徴としての「芸」を見せて極まる。その芸を、襷折、抱、平、丸、追、狂などと呼び、一花で複数の芸を持つほど良花として競い合ったのである（上掲イラスト参照）。

江戸菊の成立

そこで、手持ちの文献資料により考察を試みた結果をまとめてみた。

- 一 「中菊」（江戸菊以前の名）成立以前
- 二 「中菊」成立「菊花俗談」を読み解く
- 三 中菊花位附 愛好者の番附刊行
- 四 「正菊」（中菊の次称）大流行
- 五 「江戸菊」命名者は誰？

一 「中菊」（江戸菊の前々称）成立以前

次ページ上の表（表1）のごとく、直接「江戸菊」の条件に符合する品種は見当たらない

表1:「中菊」成立以前の文献記載

西暦	刊または成称年	文献資料名	品種名	咲き方等	図
1690	元禄3年9月刊	伊奈伝草	ぬれさぎ	白大輪花(よれ咲き)	なし
			より牡丹	白中輪	なし
1691	元禄4年刊	画菊	より蓮 黄縮	平弁よれ咲 細弁よれ咲	あり
1712	正徳2年春刊	当世後の花	より蓮菊 捻菊	千重千弁 巴黄とも云う	あり
1715	正徳5年3月刊	花壇養菊集	丁字よれ咲	丁字咲全盛期	あり
	正徳5年刊	乙未画菊集	不破関	白八重臥抱咲	あり
			鳥呼浦	匙巻乱咲心青栴	あり
1755	宝暦5年9月刊	国字略解菊経	乱葉	クルヒサキ	なし
			弁結不舒	クルヒサキ 結ビタルナリ	なし



画菊(元禄4年刊)
蓮纏(ずいより)など、現在の「江戸菊」の条件を部分的に持つ、中輪菊の絵が記載されている

二「中菊」成立

『菊花俗談』を読み解く

いが、ヨレ、捻れ、クルイなどの「江戸菊」の部分的な条件が出現している品種が記載されている。

「菊花俗談」は、江戸青山に住んでいた松籟軒南甫の著作、写本にて伝わる。漢文(点訓付)自序一丁半のあとに宝暦年中とある。当文庫には二部を蔵するも点訓等の写しもれ等もあるも、ほとんど差異は見当たらない。本文は和文で、墨付十丁、最終丁ウラに樂松館の文字が見え、著者の号の一つであろう。二書とも能書の写本であるが、「遠加文庫(朝顔の研究家として知られる画家、岡不崩)の旧蔵本を底本とした。花形の記載部分を抄録するとおおよそ次のようになる。

「菊花俗談」花形抄録

元禄の初めごろから、上方を中心に菊作りが盛んとなるも花形は一重または八重咲が主体で、大きさは一寸(3cm)から三寸のものが主体。

宝永の頃、各地に広まり、菊に品種名が付けられるようになった。

正徳の末には一層全国に広まり、花形は丁字咲が流行し三寸から五寸の大きさである。

享保に入り、毛咲、管咲などが現れ、花の大きさも七寸から尺を越すものも現れた。

享保十年、紀州和歌山から京都へ、紀州菊(珍花)中輪菊が伝えられた。

享保十四年、京都でいよいよ珍花が現れ、ヨレ、クルイ、巻込、中輪花など。

此の頃、金生菊、中菊とも呼ばれ、江戸へ伝えられた。

寛延二年、江戸市ヶ谷八幡社に於いて「中菊実生新花合会」が開かれた(実生会の始まり)

寛延四年、中菊が商人の手に渡り、一般に広まる。以上。

宝暦年中、江戸市中、近郊で中菊栽培が盛んに行われるようになったことを知ることができると同時に、中菊は実生による新花を持ち寄って競い合う風習が生じたようだと思われる。

しかし、その実生会は、江戸市中で開催されたことであろうが、直接結びつく資料を目にすることはできず、文政、弘化、嘉永に「中菊花位附」と題した資料によりその隆盛を識ることができる。

三 中菊花位附

愛好者の番附刊行

下の表(表2)のごとく、おおよそ年に二回、実生による新花の品評会が開催されたことになる(次ページ右上の刷もの参照)。

しかし、この番附には重なる品種名が一切なく、すべて文字通り新花の持ち寄りによる競い合いであることに驚く。当の最高位には「会一無極」の称号が与えられた。今ひとつ驚くことは、花径が七寸五分(22cm)、八寸(24cm)と大輪花も含まれ、それが「会一」となっていることである。

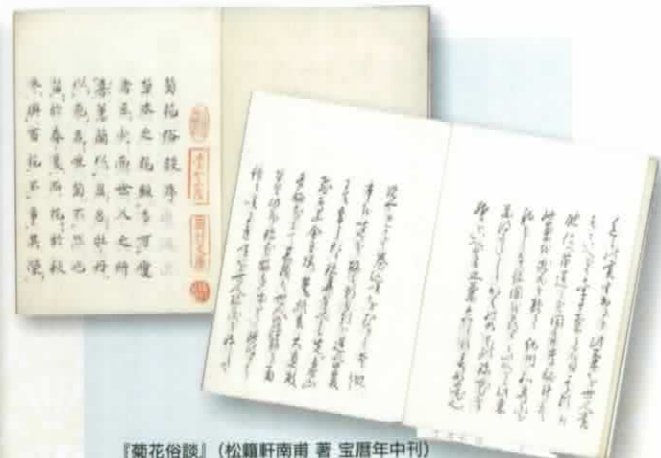
四「正菊」(中菊の次称)

明治中期の大流行

「菊の香」中山恒三郎、千葉胤一、長崎栄三郎共著。明治四十三年(一九一〇)和装

表2:中菊花位附

西暦	刊(年月日)	場所	出品総数	会一無極	
				花名	花色・莖
1818	文政1年10月16日	英園宅	125種	天の岩戸	紅折抱え
1820	文政3年10月6日	英園宅	83種	月の位	白平抱え 8寸
1820	文政3年10月17日	楽群宅	74種	月の秋	白よれ狂い
1821	文政4年10月17日	英園宅	84種	比ひ浪	白鎌ヨレクミ 7寸3分
1821	文政4年10月23日	楽群宅	73種	龍女の扇	薄紫太鎌ヨレクミ大輪
1822	文政5年10月4日	英園宅	61種	幡龜山	黄平抱 7寸余
1822	文政5年10月7日	楽群宅	95種	龍宮城	黄ヨレクミ 8寸
1823	文政6年10月14日	楽群宅	87種	大海	白ヨレ抱管走
1823	文政6年10月18日	英園宅	68種	千里ノ外	白ヨレ乱抱
1845	弘化2年10月14日	楽群宅	155種	五雲の境	薄色左抱 8寸
1845	弘化2年10月2日	耕雲宅	138種	凌山金閣	黄折匙走
1846	弘化3年9月26日	楽群宅	170種	雨露の恵	白折抱匙走 6寸5分
1847	弘化4年10月12日	(無記載)	139種	麒麟山	白丸抱匙走
1848	嘉永1年10月17日	楽群宅	158種	麒麟閣	紅折抱匙走
1848	嘉永1年10月23日	耕雲宅	193種	玉樹綾麻花	白爪紅追抱匙走 7寸8分
1852	嘉永5年10月5日	楽群宅	113種	千年鶴	白櫻折抱匙走 7寸8分
1854	嘉永7年9月27日	楽群宅	64種	大海の月	白丸折抱匙走 7寸



『菊花俗談』(松籟軒南甫 著 宝暦年中刊)
左上:第一丁。蔵印あり。遠加文庫(岡不崩旧蔵書)
右下:見開。紀州菊、中菊の考察が記載されている

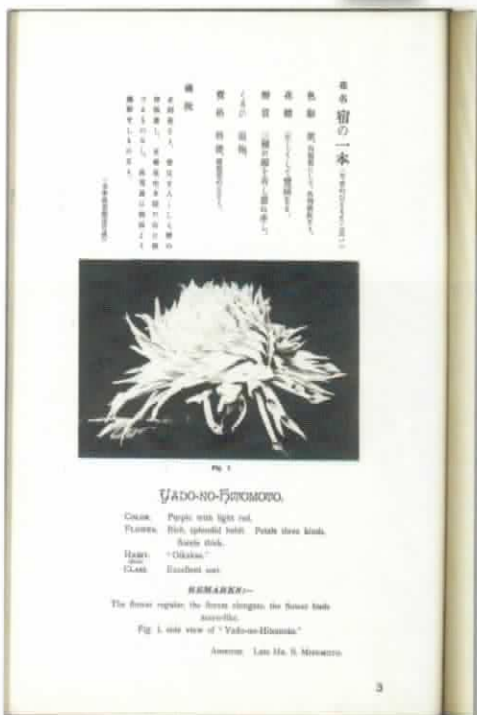


中菊花位附
文政1年(戊寅)
10月16日
(江戸)四ッ谷仲町 斎藤
英園宅に於いて開催され
た、中菊新花の持寄展示
会の位附一覧表。
当日一番の花(会一無
極)は「天の岩戸」。杏
葉館の出品である



『菊の香』
(明治43年刊)
和装大本活版刷。
第一丁に掲げられ
た桂太郎の題言

同上3頁。現在に
も伝わる明治期の
銘品種「宿の一本
(やどのひとつもと)」
が、「正菊」として
記載されている



大本として大日本正菊会により刊行された。
この書によれば、当書は明治三十三年
(一九〇〇)より刊行の気運が盛り上がった。
総裁に伯爵榊山資紀、顧問に多くの子爵、
男爵らが名を連ね、題言の最初は桂太郎が
「秋香」と書を寄せていて、七十六頁に及
ぶ正菊(中菊)の品種写真掲載している。
「菊花の培養盛んに行われるが、故水本
成美先生(元老院議員・明治十七年没)は
菊花培養に就いて近代の師表たりといふべ
く、正菊を以て花の模範として、古花を保
存し、新花を育成せられ云々」と序に見え、
明治中期に中菊を正菊と呼ぶようになった
らしい。
また明治三十七年(一九〇四)には新宿
御苑に菊花壇が造られ、中でも明治天皇が
中菊を好まれた由にて、中菊と云う中途半
端な名称を、これぞ菊の中の菊として「正
菊」と呼んだと考えられる。

五「江戸菊」 命名者は誰?

中菊を「正菊」とまで名を変え、有名人
が力を注いだ。一時的あるいは東京のみ
での流行に終わったか、一般的には大輪菊
系の品種に流行は傾き、大正、昭和初期の
菊の栽培書は大輪菊主体となった(表3)。

まとめ

江戸菊の呼称は、原形が紀州和歌山で作
られ、京都で「中菊」となり、江戸へ伝え
られ大流行。明治後期、「正菊」と称せら
れるも一般に受け入れられず、中菊に戻り
かけていたところ、丹羽鼎三博士によつて
昭和七年に「江戸菊」の名が付けられ、以
降この名称が一般に受け入れられた。

享保十年、紀州菊として誕生したヨレク
ルイ巻込咲中輪花は、享保十四年江戸へ伝
えられ、「金生菊」、「中菊」として受け入
れられ、文化文政ごろ江戸で大流行。明治
後期一時「正菊」と呼ぶも定着せず、昭和
七年「江戸菊」となり定着した。

表3：現代刊行本と中菊呼称

西暦	刊(年月日)	書名	著者名	呼称	別名
1917	大正6年1月刊	大日本菊鑑誌	佐々木晚翠・著	中菊	狂菊
1929	昭和4年11月刊	最新菊の作り方	石井勇義・著	中菊	
1932	昭和7年11月刊	原色菊花図譜	丹羽鼎三・著	江戸菊と称す	
1933	昭和8年10月刊	菊花栽培大成	立石恒四郎・著	中菊	狂菊
1938	昭和13年12月刊	菊栽培のてびき	岩井清美・著	江戸菊	
1950	昭和25年1月刊	園芸大辞典 巻2	石井勇義・編	中菊/江戸菊	くるひ菊 (「江戸菊」は丹羽博士による新称として記載)
1975	昭和50年9月刊	原色菊	小玉三代司・著	江戸菊	
1981	昭和56年11月刊	菊花譜	全日本菊花会・編	江戸菊	

原色菊花図譜(洋装本・昭和7年)
丹羽鼎三著。江戸菊「樓下の駒」。「江
戸菊」という呼称が初めて用いられた

皇居外苑の 四季の移ろい

一般財団法人国民公園協会・皇居外苑支部長

宍戸 博



夏6月 ガクアジサイ (北の丸公園)



夏7月 タイサンボク (北の丸公園)

国民公園皇居外苑

2019年、新天皇の御即位に伴い、これまで以上に多くの人が皇居参観に訪れました。

皇居と呼ばれる区域は宮内庁の管轄ですが、皇居前広場を中心とした皇居外苑地区、皇居を取り巻くお濠及び皇居の北側に位置する北の丸公園(北の丸地区)は、国民公園皇居外苑として環境省が管轄しています。以下、国民公園皇居外苑について記述いたします。

皇居外苑は、1949(昭和24)年に旧皇室苑地の一部が国民に開放されたのですが、北の丸公園は、旧近衛連隊の跡地を森林公園として整備したもので、1969(昭和44)年に公開されました。

総面積約115ヘクタールあり、このうち濠の水面部分は12の濠(環境省所管区域)をあわせて約37ヘクタールで苑地全体の約3分の1を占めています。

皇居外苑の見どころ

年間を通じて国内及び海外から多くの人々が訪れる皇居外苑ですが、とりわけ二重橋は、代表的な観光スポットになっています。お濠に架かる二つの橋の手前の石造りの橋が「正門石橋」、奥の橋が「正門鉄橋」と言われていますが、厳密には奥の橋を指します。これらの橋は通常は使用されていませんが、新年の一般参賀や外国賓客の皇居訪問等宮中の公式行事の際に利用されます。



皇居前の大芝生広場に点在しているクロマツは約2000本あり、江戸城のたたずまいを残す濠、城門などの歴史的建造物と調和して、皇居外苑の特徴的な景観を形成しています。皇居外苑と言えば、この緑の芝生と松のイメージが強いですが、森林公園として整備された北の丸公園等を中心に、四季を通じて様々な植物や鳥たちに出会うことができます。

皇居外苑の四季

まだ寒さの残る堤塘(土手)には、日溜まりの斜面にスイセンが咲き始め春を告げます。この後、堤塘のあちこちで花が見られるようになり、桜田濠や牛ヶ淵等では、3月末から4月にかけてナノハナや紫色が鮮やかなシヨカッサイ等が堤塘二面を彩ります。4月半ばを迎えると馬場先堤塘ではサトザクラ(八重)のイチヨウ(一葉)が咲き出します。北の丸公園では、落葉樹がまだ葉を落と



写真上：早春2月 マンサク 写真下：春3月 ハクモクレン
(いずれも北の丸公園)

しているなか一足早くマンサクが花を付け、中央樹林地周辺ではウメの花が咲き始めます。3月に入るとハクモクレンが咲き始め、下旬頃にはコブシやレンギョウなど次々と咲き、千鳥ヶ淵をはじめ園内各所で桜(ソメイヨシノ)も咲いて、4月にかけて春真っ盛りの様相となります。桜も終わる頃となると、木々の若葉が出そろい紅紫色の鮮やかなハナズオウが咲きます。毎年6月になると、濠ではカルガモのヒナの一群が泳いでいるのが見られます。留鳥のカルガモは、皇居外苑のお濠に二年中生息しており、和田倉濠の石垣の周辺などで営巣する姿が見られます。

北の丸公園の林縁部では、ガクアジサイが薄紫色の花を見せてくれます。夏場は比較的花の少ない時期となりますが、7月から8月にかけてタイサンボクやムクゲ、キョウチクトウの花が盛夏に彩りを添えてくれます。

8月、皇居外苑のお濠に面した石積の奥に、ヒカリゴケが淡黄色に輝いています。ヒ



皇居外苑行幸通り (2018年)

ヨシガモ (2018年)



馬場先堤端の桜「イチヨウ」(2018年)

皇居外苑一望 (2018年)



ホシハジロ



秋 四阿(あずまや)フレームのイチヨウ

カリゴケは、空気が清浄な冷涼地で適度な湿度と暗さのある洞窟内などで生育しているのが知られていますが、都心の平地にある皇居外苑の石積の内部環境が、いわばエアコンのような働きをして生育環境を形成しているものと考えられています。1972(昭和47)年に「江戸城址のヒカリゴケ生育地」として天然記念物に指定されています。

秋が深まると、行幸通りや馬場先濠のイチヨウ並木が、見事な色づきを見せてくれます。北の丸公園では、モミジの仲間やイチヨウが、赤や黄色に色づき鮮やかになります。実りの季節でもある秋は、モッコク、ハナミズキ、ムラサキシキブなど多くの木々が色とりどりの実を付けます。

皇居を取り巻くお濠には、冬になるとカモ類を中心に多数の渡り鳥が飛来します。近年はキンクロハジロが多く見られますが、ホシハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロなども見られます。凱旋濠などではヨシガモの群が見られることがあり、千鳥ヶ淵にはユリカモメが群れて集まっています。

このように皇居外苑では、四季を通じて身近に自然とふれあうことができます。

皇居東御苑

皇居外苑に隣接する皇居東御苑(宮内庁管轄)も一般に無料で公開されています。出入りは大手門・平川門・北桔橋門の各門からとなり、各窓口で入園票を受け取り入園します。江戸城の城址、石門、歴史的な建造物を間近に見られるとともに、季節ごとに花が咲き乱れるスポットでありますので、都会にいなながら色とりどりの花々を楽しむ場所です。

北の丸公園(北の丸地区)と皇居東御苑(皇居外苑(皇居外苑地区))と一体的に公園利用が可能になっていますが、面積が広いので、その時々目的に応じてご利用いただくことをお勧めします。

皇居外苑の利用施設

北の丸公園と皇居外苑地区には、それぞれ休憩施設と売店があり、飲食しながら休憩することが出来ます。それぞれ駐車場もあります。皇居外苑地区の駐車場は、原則皇居参観等の利用で来られる観光営業バス等の利用に限られています。

皇居外苑のほか新宿御苑と京都御苑が、環境省所管の国民公園に位置付けられています。公園ごとに違った魅力がありますので、機会がありましたら訪ねてみてはいかがでしょうか。



キンクロハジロ

一般社団法人

日本ハンギングバスケット協会の歴史と今後

第四代理事長 武内 嘉一郎

国際バラとガーデニングショウでのコマ展示

設立趣旨と社会背景

20世紀後半の経済界バブル崩壊が現実化してきたころ、1990年の大阪での花博は、社会全体への刺激になり、園芸界にはそれ以上の効果をもたらしました（はず）。ところが、その頃から園芸界にも右肩下がりの現実が始まっていました（数字的には2000年頃とされるが、現場ではすでに伸び率が下がり始めていた）。

私も業界の一員として実感があり、このままではいけないと思っていた矢先に、おしゃれ園芸を提唱していた故坂梨元理事長と資材開発関係の伊藤元理事と知り合いました。3人とも園芸復活のための方法論こそ違っても、最終目的は一致していました。「園芸界を元気にし、街に花でいっぱいにして、西欧に負けない日本にしたい」。1996年、その思いが、愛知県懇話会から日本ハンギングバスケット協会（以後、JHBSと称する）という資格認定団体を生みました。

国際バラとガーデニングショウ

設立2年後の1998年、故坂梨元理事長のNHK「趣味の園芸」との縁から、西武ドームで行われる「国際バラとガーデニングショウ」への参加要請がありました。そこで、試験に合格した会員、すなわちハンギングバスケットマスター（以降HBM）の腕の見せ所として、園芸ファンに新しい手法を披露し、西欧の花飾りの

ような日本式の提案を行おう、ということになりました。以後、2018年まで20年間、毎年、コンテストを通じて、ハンギングバスケット（以降HB）の魅力を訴え続けました。各HBMは常に大賞を狙い、デザイナーとして賞賛を集めました。スキルや数量など、日本一のHBコンテストとなり、全国からHBMの参加がありました。

日比谷公園ガーデニングショウ

2003年、日比谷公園100周年記念事業として、日比谷公園ガーデニングショウが開催されようとしていました。JHBSにもお声がかかり、造園関係者との取り組みが始まりました。これまで「樹木を知らない園芸家、花を知らない造園家」と見なされて距離があったのが心配でしたが、論より証拠、「当たって砕ける」精神で、精いっぱい造園界の人たちに花の演出に関する意見を述べ、特にHBの取り組み等のお話をしました。

女性の多いHBMがたくさん活躍している姿、100基以上の作品を集めたコンテストが、造園界の方たちにとっては驚きだったようです。数年後にはお互いの利点を活用する形ができあがり、ガーデニングショウは今も続いています。園芸界と造園界のつながりを作った、初めての広範囲イベントだったと思っています。

現在は、以上のようなコンテストと同時にイベントにも数多くかわる機会を得られ、各界の人たちとの融和とお互いの利点の相乗効果が出始めたといえるでしょう。

とかくHB作品は、「植物の取り合わせが違う！」とか「西欧のHBと違って育てる園芸にはなっていない！」などと言われます（特に、植物家と言われる方には、余りよろしくない装飾法と思われる方もいます）。しかし、日本には四季があるために「育てては捨てる」ともなりがちで、鑑賞期間が短かすぎる従来の趣味園芸では、消費者は満足しなかつたのだと思います。生け花ほどすぐだめにならず、育っていく姿も鑑賞できる、まさしくおしゃれな園芸が消費者の気持ちを誘ったのだと思います。



日比谷公園ガーデニングショウの正面入り口装飾



上：臨海副都心（お台場 シンボルプロムナード公園）
おもてなしガーデン



右：世界らん展 [2017年2月]

イベント等のワークショップでは、簡単そうでなかなかできないHBに一般の方も興味津々のようです。ちなみに、JHBSは、HBのみならずコンテナガーデンも街の花飾りにはなくてはならないものとして、その範疇としております。

世界らん展

2017年、世界らん展を主催する東京ドームからお誘いがあり、ランとの組み合わせで、インドアでも使われるHBの可能性を問われました。

早速に、リビングを想定した空間を舞台に、ランを使ったHBの提案をしていきました。個人対応のコンテストという形で開催し、2020年も第3回目のコンテストは行われますが、今後のインドアでのHBの行方はまだ未知の世界です。

オリパラでの動き方

4年ほど前から、お台場において「おもてなし花壇」と称し、ジャパンフラワーセレクションに入賞した植物の花壇を製作しています。

2020年のオリパラを意識し、日本の花による花壇デザインが問われ、傍ら夏に強い植物の選択実験もなされています。「おもてなし花壇」の製作や管理を受け持つ全国のHBMが、諸外国に対して協会の結束と日本の装飾方法を広める絶好のチャンスとみて、各支部で地域にあった取り組みが始められています。

20年間の歩み

以上が、創立23年目の現況です。人間であれば、ちょうど20歳を過ぎ、大人として社会に飛び出す年頃です（すでに3年が過ぎて少し焦っています）。最近では、園芸界のみならず他業界からも私たちとの連携をもとめられるようになってきました（ありがたいことです）。

2015年には、公共や他団体との円滑な連携を図るため、本部で一般社団法人格を取得。各支部にも法人格取得を推薦しています。会員一人ひとりが1票の議決権を持つことを明確に、理事長初めすべての会員は平等である旨の意識で動いています。

2019年現在、HBM2000名弱、公認講師60名強、本部講師6名からなる会員が全国に平均して在住。現在支部は31となり、来年度には2支部が追加予定。

私たちの強みは、全国30以上の支部同士での連携や情報交換が大きな力になることでしょう。その成果を実感とし、今まででできなかったことも達成してきました。

今後は20年間培った知恵と技術を活かし、HBやコンテナを使用した街の花飾りに加え、それぞれの地域における特色や力を発揮するべく、各HBMの活躍をバックアップをしていく所存です。

「これからのJHBSは！」

JHBSは園芸文化協会の一会員として日本の園芸文化の継承を図りつつ、単なる

西欧の真似ではない花装飾方法を今後も志向していこうと思っています。

2018年には、（公益財団）都市緑化機構さんと包括的契約を結び、毎年行われる都市緑化フェアにおけるコンテストを初め、いろいろな取り組みを予定しています。全国各地における慣習、風土等に配慮し、その県市町村における街の花飾りや市民コミュニティに、HBMの知識と技術を活用して協力し合う、という契約です。大きな期待とともに、その責務の重大さを感じています。特に、健康寿命の延伸、地方の人口減少等諸問題を解決するための工夫を要するときにこそ「私たちの出番かな！」と思っています。

街の中に溶けこむHBの作成や技術の更新を図り、結果、街に活気が戻り、健康寿命も長くなり、笑顔が絶えず、楽しい生活のできる街がますます増えていくことを期待するところです。



横浜 グランモール公園にて街の花飾り



岡本 勘治郎 氏



「ブラックティー」
Rosa 'Black Tea'
(岡本勘治郎:1973年)
深みのある濃い紅茶色
の花。半剣弁高芯咲き
大輪。魅惑的な雰囲気
で根強い人気を誇る。

昭和五三年園芸文化賞

岡本勘治郎

「バラの改良・普及」

【受賞者略歴】

明治三二年七月十一日生

大正一二年三月千葉高等園芸学校卒業

大正一三年三月京都府立植物園勤務

大正一五年同園を退職。自園でバラの

品種の収集と栽培技術の研究にはいる

昭和三年大日本ばら会設立に発起人と

して尽力、理事に就任

昭和三〇五年イギリス、フランスな

ど欧州各国へバラの研究のため留学。

RHS終身会員となる

昭和五年以後、京都大学並河功教授と

共同研究の形で論文を発表

昭和二五年日本花卉園芸協会を設立、

副会長に就任

昭和三十年京阪ひらかた園芸(株)創立、

常務取締役に就任。

*略歴は園芸文化賞受賞時のもの。

園芸文化賞受賞に寄せて

「バラの父

岡本勘治郎先生」

鈴木省三

バラは現在わが国においても、最も愛培普及されている観賞植物の一つになっていきますが、これについて思うに、昭和初期の岡本勘治郎先生の大へんな努力がなければ、今日のバラの繁栄をもたらしたとは信じられません。

当時、ヨーロッパ全土のバラ作りを歴訪し、バラ栽培及び新品種育成についての調査研究をなさった業績というものが、今日、日本のバラ育種の基礎となつて、ことに、現今に至つて日本の新品種が海外の国際コンクールで堂々と賞をとるようになったことは、誠に、先生の礎あつたのことに、感謝に絶えません。

岡本先生は、もの心ついたころからバラを作っていた、という話さえもうかがうほどですが、バラをはじめとして、花卉全般にわたる広い視野と深い探究心は、先生をおいて他に比を見ることができません。今日、わが国園芸界の第一人者として数えられる、藤井健雄千葉大学名誉教授、塚本洋太郎京都大学名誉教授、坂西義洋大阪府立

大学教授、脇坂誠神奈川県フラワーセンター部長など、それぞれの方が学生時代に岡本先生の手ほどきを受けたことは、だれもが知るところです。私なども、京都伏見のお宅の図書室に魅せられて、お伺いしてはバラについてのくわしい御教えを受け、数週間滞在させていただいた失礼もありましたが、こうした後輩に対する先生の理解と教えが、今日、わが国の、バラはもとより園芸発展の支えとなっていることは疑う余地もありません。

後年、朝日バラ会の研究園を作り、原種、オールドローズをはじめ、数百種を収集されたことも、有名な業績です。鹿児島大学有隅健一博士の若き日の研究として発表された、バラの花弁にあらわれる色素の研究は、岡本先生の指導のもとにすぐれた業績となり、世界を驚かす論文となりましたが、有隅博士がいかにすぐれた園芸科学者であっても、あの多くのバラ品種の収集がなければできなかつたことは、周知の事実です。

岡本先生は、バラの業界にはほとんどタッチされませんでした。日本のバラの今日あるのは先生の大きな開発によるものと、あえて重言するしだいです。今後ますますお元気で活躍されることを祈ります。

(通巻第六四夏号 昭和五三年発行)



‘聖火’ *Rosa 'Seika'* (鈴木省三:1966年)
半剣井高芯咲き大輪ハイブリッドティー。微香性。英語で‘オリンピック トーチ’とも呼ばれる。



‘芳純’ *Rosa 'Hohju'* (鈴木省三:1981年)
半剣井高芯咲き大輪ハイブリッドティー。四季咲き。オールドパルファムにもなった甘く芳しい香りに定評。

‘ミスターローズ’
Rosa 'Mr. Rose'

(武内 俊介:2013年)
鈴木省三氏の生誕100年を記念して作出。白にローズ色覆輪。半剣井高芯咲き大輪。芳香性。



「ミスターローズ」の由来
1986年11月、ニュージーランド南島にオールドローズの権威トレヴァー・グリフィスを訪ねた鈴木省三氏を地元紙が取材。初めてこの名で紹介し、以来、国際的なニックネームに。

*写真のバラは全て園芸文化協会が設計監修した日比谷公園第一花壇に植っています。ぜひ足を運んでご覧になってください。

園芸に文化意識を！

鈴木省三

現在、わが園芸界にも多くの分野がありますが、いずれの分野に携わる方も、それぞれの面から日本の文化に貢献しているんだ、という誇りと自信と責任をもっていただきたいものです。

かつて肥後藩(熊本)では藩主細川侯自らが先頭に立って園芸にいそしみ、技術の開発と品種改良を奨励し、秘伝の内外不出を厳命したといわれています。これは師弟代々、積み重ねた珠玉のような文化を守る、尊い覚悟からきていると聞きます。単なる趣味や職業からでなく、文化に対する深い理解と責任が、当時の優れた品種や技術を産み、育て、功労者は藩主直々にお賞めの言葉を賜りました。

また、徳川十五代に亘る鎖国による二六〇年の平和は、多くの園芸植物と優れた品種を産み、草木錦葉集や草木育種のよきな、優れた文献をも残しました。当時の趣味家が、ソロバンを度外視して努力した結果が、知らず知らず園芸文化の美しい花を咲かせたものだと思います。

日本は敗戦後軍力を捨て、文化国家として立ち直ることを内外に宣言しましたが、どうやら文化を伴わない経済大国になったようです。文化は強い意志と重い責務の上に成り立つもので、無責任や無道徳の中では成り立ちません。

戦後、園芸文化協会の役員の方々が、日本の園芸文化のために、手弁当で努力され



鈴木省三氏
(写真提供: NPO バラ文化研究所)

て、ようやく世に認められつつあることは、感謝感激、ご同慶の至りです。

しかし、これを今、斜陽の国といわれるイギリスに比較して考えますと、RHS(英国王立園芸協会) — 英国王立園芸協会というが、今王室は全然補助をしていない — は経理が苦しいと言いつつも、一年中、あらゆる園芸植物の展覧会がやれる大ホールをロンドン市の中心に持ち、市民はもちろん、英国中はおろか、諸外国の園芸文化にまで寄与しています。また、RHSは合計二〇万坪(66ヘクタール)を超える大農場を持ち、世界から園芸植物や新品種を集めて栽培する他、二〇〇年に亘る園芸資料の保存と維持、園芸植物の研究をつづけています。

さて、文化国家と自称するわが国の園芸界に何があるでしょうか? 新聞や雑誌に音楽や美術の評論は極めて活発ですが、園芸の展示会があるごとに、内容の紹介や評論があるでしょうか? 私達園芸関係者もずっと園芸文化の開発に努力し、外国に負けない、いやイギリスの十分の一でもいい、園芸文化と施設の建設に努力しようではありませんか?

(通巻六六号 昭和五四年発行)

プロフィール・すずせいぞろ(執筆当時 京成バラ園芸研究所所長)

一九一三(大正二)〜二〇〇〇(平成12年)。享年86歳。旧姓若林。

一九三一(昭和6)年 四月東京府立園芸学校(現・東京都立園芸高校)専攻科入学。卒業後、東京・阿佐谷「西郊園」、東京・江古田「紫香園」、東京・奥沢「毛利タリ」ア園を経て、一九三八(昭和13)年一月東京・奥沢に「とどろきばらえん」創園。

一九四〇(昭和15)年 鈴木晴世と結婚。鈴木に改姓。一九四四(昭和19年) 東京府立第五中学校(現・小石川高校)にて教員勤務。一九四八(昭和23年) 東京・銀座資生堂ギャラリーにて第一回バラ展を開催。「新日本バラ会」発足。

一九五六(昭和31)年 ドイツのハンブルグ国際コンクールにて「天の川」が銅賞受賞。一九五八(昭和33)年「京成バラ園芸」創設に参加、研究所所長に就任。一九七〇(昭和45)年 オランダのハーグ国際コンクールにて、かがやき銀賞受賞。一九七二(昭和47)年 ニュージーランドの国際コンクールにて、聖火金賞・南太平洋金星賞受賞。

一九七三(昭和48)年「とどろきばらえん」閉園。一九七八(昭和53)年 植物品種の育成者権保護のための「種苗法」制定に貢献。一九八二(昭和57)年、乾杯、口一馬大賞金賞受賞。

一九八四(昭和59)年 園芸文化賞受賞。一九八八(昭和63)年 光彩 AARS(オールド・アメリカン・ローズセレクション)大賞受賞。一九八九(平成元)年 園芸学会功労賞受賞。一九九〇(平成二)年 金婚式を記念し、夫人の名を冠した「晴世(淡ピンク芳香バラ)」を発表。一九九七(平成9)年「松下幸之助花の万博記念賞」受賞。

舞妃蓮

よみがえったハスの美

舞妃蓮保存会会長（和歌山県御坊市） 阪本 尚生



上：中山の蓮池

舞妃蓮を作出した阪本祐二氏

舞妃蓮は、一九六六年に阪本祐二（筆者の父親）が大賀蓮とアメリカ黄花蓮である王子蓮を交雑させて作出した品種です。開花2日目以降、太陽方向の変化にともない花弁に捻れを生じ、あたかも舞うように見えるのです。父は、その様を美智子妃殿下（現上皇后陛下）のお姿に重ねて「舞妃蓮」と名付けました。

ハスは仏教の思想を象徴する植物です。我が国に伝来した頃は、仏像や寺院の様々な意匠に取り入れられ、仏教の教えを示す煌びやかな存在でした。しかし時代が下るにしたがい、仏教の形骸化とともに葬式の花となり、忌み嫌われる存在になってしまっていました。

そうした風潮の中でハスに新たに脚光をあてたのが、一九五一年の大賀一郎博士による大賀蓮の発見でした。『The Oldest Flower』として世界の人々を驚かせたことは、周知の事実です。この大事業によ

りハスは再び脚光を浴びることになりました。しかし父によれば「未だハスの美はよみがえらない」状況でした。そして再びその美をよみがえらせるためには、「一段と色調を持たせる」ことだと考えました。ちょうどその頃、皇太子殿下（現上皇陛下）によりアメリカ黄花蓮（王子蓮）が日本に導入されていたので、東洋産ハスの代表である大賀蓮と交雑させれば、豊かな色調のハスが産まれる、と父は確信し、一九六六年に両種の交配を試みました。

幸い交雑は成功し一九六八年には花を咲かせました。花弁は王子蓮のクリーム色をベースに大賀蓮のピンクをほんのり載せた大輪、しかも舞うが如き姿。「ハスの美はよみがえった」まさに父はそう思ったことでしょう。

最初に蕾を持った株は、鉢のまま東宮御所に届けられ、皇太子ご夫妻（現上皇・上皇后両陛下）にご観賞いただきました。その後全国各地に分根されハスの世界

に一段と彩りを加える存在になりました。一九六六年には、宮内庁からの依頼で皇居に分根しています。

しかし、地元では長らく舞妃蓮を知る人は限られていました。二〇〇八年になって、御坊市北塩屋区の依頼で地区の休耕田に舞妃蓮を植えることになりました。その年の春に同区の三〇〇平方メートルの休耕田（中山の蓮池）に蓮根を移植したところ、3年目頃から池全体に広がり、30センチを超える大輪の花を無数に咲かせ始めました。そのことが瞬く間に近隣に広がり、噂を聞きつけて多くの人が見に来れるようになりしました。ちょっとした舞妃蓮ブームが巻き起こったのです。誕生から50年にしてやっと地元で知られる存在になりました。

これを機に、御坊市生まれの花として広くアピールしようと、地元有志で舞妃蓮広報推進委員会（現舞妃蓮保存会）が組織され、二〇一二年からはフォトコンテストや蓮観賞会を実施しています。現在では、同市の舞妃蓮の郷や日高港塩屋緑地のSioトープ（生物空間バイオトープ）が広がる緑地公園にも分根され、地元はもとより近隣の人々の目を楽しませる夏の風物詩となっています。

今後も生まれ故郷の御坊を拠点に、再びよみがえったハスの美を全国、否世界へ届けるために活動を続けて行くつもりです。



舞妃蓮 *Nelumbo nucifera* × *N. lutea* 'Mathiren'
太陽の動きにつれて花弁が捻じれ、優美に舞う姿のように見える。左が開花初日、右が開花から2日目の花容



アメリカ黄花蓮 *Nelumbo lutea*



大賀蓮 *Nelumbo nucifera*

当保存会では、ブログ「舞妃蓮日記」
<https://blog.goo.ne.jp/mahiren>
を設けて中山の蓮池の状況を逐一報告
しています。なお、当保存会への「連
絡は uskg8985 @ gmail.com 阪本
までお願いいたします。」

蓮の香りに魅せられて

有限会社 ホリーホックガーデン 代表
(公社) 園芸文化協会常務理事

奥 峰 子

ヨーロッパの花壇ばかり学んできた私が蓮に惹かれるようになったのは、園芸文化協会が開催した早朝観蓮会に参加した日からでした。小笠原会長の立花のお手伝いとセミナーを拝聴した瞬間から、蓮という言葉に大変敏感に反応するようになっていました。

令和元年は私にとっては記念すべき蓮の年だったので。長年携わっている品川区の公園に美智子上皇后ゆかりの舞妃蓮を咲かせること(裏表紙参照)ができましたし、念願のハノイの蓮を見に行くことも出来ました。

ベトナムの蓮茶は、ハノイの蓮から作られると聞いていました。ホーチミン市などベトナム南部では蓮は年中咲くようですが、北部のハノイでは6〜8月のみ開花します。なかでも西湖の蓮は花びらの数が多く、その分香りを中に閉じ込めているので、他の場所の蓮よりも香りの高いお茶が作れるそうです。

早朝に花市場に行くと蓮の花であふれています。売り子さんが器用に蓮10本ほどを蓮の葉でくるんで、あっという間に花束が出来ていきます。それが一東日本円で約250円という安さ。なんだか申し訳なく思われました。

蓮のお茶はどのような作っているのかというと、私は2通りの作り方を見ることが出来ました。

通じなかったもので、そのあとどうするのかを聞くことが出来ませんでしたけれど。もう1ヶ所、市内中心部のお茶の老舗に向かうと「あと5分で花が着くよ」。待ち構えているとバイクに乗ったおじさんが大きな袋を運んできました。お店の中にいれると、すぐさま中身を床に広げて一斉に作業が始まりました。

こちらでは花の中から薬の部分だけを取り出し、蓮の葉の中に集めて行きます。幸い少し話を通じる方がいたので尋ねてみると、お茶の葉と薬を交互に重ねて2日置き、3日目にお茶の葉だけ取り出して乾燥させる。というのを6〜7回繰り返すとのことです。1グラムの蓮茶をつくるのに200輪の蓮の花が必要だとか。どうりで1000グラム5000円くらいの蓮茶になるわけですね。

ハノイの街の中にはたくさんのお花屋があります。そして自転車で花を売り歩く姿も。日本と比べるとかなり貧しい生活を強いられているはずなのに心に余裕があるので、どうですか？

一年中同じような切り花が並ぶ日本からハノイに飛んで、旬の蓮の花であふれる街の香りに包まれた幸せな時を過ごしました。



あっという間に蓮のブーケが完成(花市場にて)



花びらの数が多い香りが高いのが西湖の蓮の特徴です。この蓮がハノイの蓮産葉をささえています

夢のようにたくさん積み上げられた蓮の花束たち。早朝の花市場は蓮の香りで溢れています



蓮茶の作り方 その2 (最高級蓮茶の場合)
市内の老舗製茶店の床一面に広がる蓮の花を素早く手に取り、薬だけを集めます。その後乾燥した茶葉と交互に重ねていくそうです



蓮茶の作り方 その1
摘んだばかりの蓮の花の中に乾燥した茶葉を詰めて、器用に蓮の葉でくるんでいきます(蓮池のほとりの小屋にて)



スペシャリストを養成する テクノ・ホルティ園芸専門学校

(学) 伊東学園テクノ・ホルティ園芸専門学校理事長 伊東 政信
(公社) 園芸文化協会理事



生産実習～花苗の管理

生産実習～イチゴの植え付け

学生による園芸教室の一コマ



造園実習の一コマ～実践的に授業をすすめます



花きコースの学生が育てたヒマワリを採集するフラワーの学生



見本植物として約300種の多肉や、200種の観葉などをそろえています



文化祭では学生がつくった寄せ植えをお客様へ販売。接客や商品説明の練習にもなります



文化祭で陳列した野菜の即売。それぞれの野菜は学生の生産によるもの

テクノ・ホルティ園芸専門学校は昭和63年4月、園芸や造園のスペシャリストの育成を目指して埼玉県行田市に開校しました。

専門学校とは学校教育法の中で「職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」ことを目的とした学校とされ、昭和51年に制度が発足。実践的な職業教育、専門的な技術教育を行う教育機関として、多岐にわたる分野でスペシャリストを育成している学校群であり、その一つとして園芸教育を行っているのが本校です。

園芸と一言と言っても実際には幅が広く、花や野菜の生産や流通、装飾、小売りと多岐にわたり、同時に広義の意味も含めて造園の分野についても教育しています。但し、園芸・造園の守備範囲は極めて広く、専門学校での2年間という時間は決して十分とは言えませんが、土を知り、植物の基本的な扱い方を身につけた上で、学生が希望する分野の専門的な知識と技能の基礎を授けることを目標としています。また、社会人としての基本も身につけることで将来にわたって活躍できる素養と、自身を磨いていくための目次を習得してもらおうとしています。

このために、学校での教育の際に大切なことは、教員から一方的に教えるのではなく、自ら考え、いろいろと試し、時には予想に反した結果を経験させること。なぜそうなったかを考えて次につなげさせることがとても大切です。社会では計画通りに仕事を進めることができなければお客様や会社に迷惑をかけてしまいます。そうならないためにも、学生の内に大いに試し、上手にいかない方法(一般的には失敗と言います)を数多く経験させることも専門学校の重要な役割です。

本校で学んでいる学生たちは、そのほとんどがとても素直な心根を持っています。こうした子供たちに2年間を通じて植物を育て、観察し、愛でさせる。そしてここでの気づきや、植物や庭のあるすばらしさを一人でも多くの人へ伝えていく。自身の職業に誇りをもって、花や緑の普及、豊かな環境づくりの第一線で活躍していける人材づくりを続けていくことが本校の使命です。

現在、本校は埼玉校のほかに東京のお茶の水においても教育しています。専門的な基礎・基本を身につけた後、自分の夢を追いかけていく場としての園芸・造園業界が今以上に輝いてほしいものです。その実現のために、園芸文化協会に大いに期待しています。

平成30年2月に実施した30周年同窓会。
約500人の同窓生が出席してくれました





屋根の上まで広がるアイビーゼラニウム
Pelargonium peltatum hybrids

ゼラニウム

鶴島 久男

私が学校を出て、農業高校の教師として、社会に一步を印したのは、終戦後間もない頃であった。食糧増産と石炭不足で、長い間かえりみられなかった、その学校の片隅に、赤い花のゼラニウムが残っていた。多くの青年が戦争という名のもとに、消えていったのと同じように、かつて緑にみちていた温室も、長い戦争の間、その多くは枯れて、この可憐なゼラニウムが、かろうじて生き残ったものであろう。この時以来、私はゼラニウムとかわりをもちつけ、私の好きな花の一つになってしまった。

ゼラニウムは学名ペラルゴニウムで統一され、その一つナツザキテンジクアオイを一般にペラルゴニウムと呼び、その他はゼラニウムとおっている。ところがこのゼラニウムにも、花の美しいふつうのゼラニウムの他に、葉の模様的美しいモンテンジクアオイ、全体に小柄なミニゼラニウムといわれるグループ、葉の香りがさらに強く、葉に切れ込みの多い香料ゼラニウムなどがある。さらにも今まで馴染みの少なかったアイビーゼラニウム（ツルゼラニウム）に、強い興味をもった。

それは、五年前に初めてヨーロッパを訪れた時、ちょうど季節が初秋であったこともあって、ヨーロッパの街々は申し合わせたように、ゼラニウムの花であふれていた。その中で、ツタのような形をした葉で肉が厚く、ツルに垂れ下がって無数に花をつけるアイビーゼラニウムが、窓辺やフラワーポット、ベランダ、あるいは街灯のポール、橋の上の手すりの所まで植えられ、いかにも庶民的な花であることを発見した。

乾燥に強く、下葉が上がらず、見事に垂れ下がっている様子は、私だけでなく、訪欧する日本人の目には印象的に映るであろう。しかも八重より一重の方が、はるかにファンタジックに見えて美しい。私も以前から手がけているが、このアイビーゼラニウムをヨーロッパで見たように育てたいと、いろいろ工夫してみたが、なかなか実現しない。日本の夏は高温過ぎるとはいえ、初夏や秋には、あのようなすばらしい姿になつてよかろうと思つたに……。

今年もアイビーゼラニウムを、すばらしく育てようと、また手がけ始めた私である。（通巻第四四号 昭和四八年発行）

プロフィール・つるしまひさお（執筆当時 園芸文化協会理事）

一九二七（昭和二）—二〇〇一（平成二二）年、都立農業高校園芸科教師、東京農業試験場栽培部長、農工大講師、（株）ミヨシ常務取締役等を歴任。著書に『花き園芸ハンドブック』等。一九九七（平成九）年園芸文化賞受賞。

事務局より（協会案内）

公益社団法人 園芸文化協会は1944(昭和19)年に、園芸文化の向上を目的に設立された園芸愛好団体です。2020(令和2)年に創立76年を迎えます。園芸文化の普及と発展のためにさまざまな活動を行っています。

主な活動

- ①園芸セミナー（講座、見学会など）の開催
- ②展示会やコンテストの実施
- ③協会報『園芸文化みんなの広場』、協会誌『園芸文化』の編集・発行
- ④功労者表彰（園芸文化賞）、調査研究
- ⑤園芸活動への支援（講師紹介、審査員派遣、寄稿・監修、後援協賛、賞の交付 他）

会員特典

- ①当協会主催の園芸セミナー等に会員価格で参加できます。
- ②各種園芸イベント等の招待券や優待券を進呈します。
- ③協会報や各種園芸イベントの案内など役立つ情報をお届けします。
- ④園芸に関わる方々との交流の場を提供します。
- ⑤賛助企業より特別提供品を進呈します。（入会時、交流会参加時）

入会について

- ・会費 正会員（個人） 5,000円
正会員（団体） 10,000円
賛助会員（企業等） 1口 20,000円～
- ・いつでも、どなたでも入会できます。
- ・会費の有効期限は納入日より3月31日までです。
- ・個人会員に限り、10月1日以降入会の場合、初年度の半年会費半額（2,500円）となります。

入会方法

- ①郵便振替にて
入会専用の「払込取扱票」にて年会費をお払い込みください。（手数料不要）
- ②入会申込書にて
銀行口座への振込や請求書の発行をご希望の方は、「入会申込書」を事務局あてご送付ください。申込書到着後、入会手続き方法をご案内いたします。

公益社団法人 園芸文化協会 事務局

〒113-0033
東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202号室
電話：03-5803-6340（平日 10：00～17：00）
FAX：03-5803-6341
メール：enbun@soleil.ocn.ne.jp

*本誌へのご意見・ご感想を事務局までお寄せください。



東品川海上公園屋上庭園に咲いた舞妃蓮^{まいひれん}

品川区には上皇后さまのご実家だった正田家（現・公園「ねむの木の庭」）があったため、屋上庭園内にはネムノキ、バラ「プリンセス・ミチゴ」を植えています。

そして令和元年に、念願かなってハス 舞妃蓮 を咲かせることができました。

純血種の舞妃蓮を手に入れたかったので、以前上野不忍池で行われた園芸文化協会の早朝観蓮会でお目にかかった東京大学大学院 農学生命科学研究科 付属生体調和農学機構の技術専門職員である石川祐聖氏^{すけい}にお願いして、昨年10本のレンコンを分けていただき、見事にたくさんのお花を咲かせることができました（写真上・左）。

昨年は最後の花は9月上旬まで咲いていましたので、今年のオリンピック、パラリンピックの折には朝のうちに屋上庭園に立ち寄って、優雅で清らかな舞妃蓮を見て行って下さるよう、広く宣伝していきたいと思っております。

園芸文化 No.128

2020年1月

編集発行：公益社団法人 園芸文化協会

発行責任者：小笠原 左衛門尉亮軒

編集：(公社)園芸文化協会 会報編集委員会

編集委員（柴田貢 南場浩一 奥峰子）

事務局：〒113-0033

東京都文京区本郷1-20-7 安藤ビル202号室

TEL 03 (5803) 6340

FAX 03 (5803) 6341

E-mail：enbun@soleil.ocn.ne.jp

HP：http://www.engeibunka.or.jp

*無断転載・複製・複写（コピー）を禁じます